インド中央家族計画研究所

Central Family Planning Institute, India

I はじめに

Dr. S. Chandrasekharは，1967年に発表した論文で，「インドの家族計画運動は，現在までのところ失敗に終わっている」と述べている。しかしながら，その後のインドの家族計画運動の展開はめざましく，今日ではそれに対する評価は必ずしも否定的なものばかりではなくなりつつある。このような変化は，健康・家族計画相という政治的立場にあるにしても，Dr. Chandrasekharの最近の発言によっても知ることができる。

昨年末の家族計画週間に発表された論文で，かれは，地域的にではあるけれども出生力のかなりの低下がはじまっていることを指摘して，1975/76年度までに現在の出生率を1000人につき25の水準にまで下げることが可能であることを示唆している。また，今年初めに行なわれたセミナーの席上，最近の家族計画運動の進展を具体的に統計を用いて評価している。かれによれば，出生率はすでに州レベルのデータでさえも，マハラシュトラ州では41.2から38.2に，マイソール州では41.6から33.8に，ケララ州では38.9から34.5に，アンドラ・プラデシ州では39.9から33.2に，西ベンガル州では42.9から39.7にといったように著しい低下を示しているという。

本来，家族計画運動の効果は，長期にわたる持続的過程として認識されるものであり，さらにインドの場合それを把握する統計が不備であるということもあり，それの評価は困難である。にもかかわらず，かれがインドの人口政策について，今日ポジティブな評価を打ち出している背景には，それなりの理論的根拠があるといわなければならないだろう。

現在，アメリカについで盛んになりつつあるインドの人口研究の成果は，このような意味で政府の人口政策の立案，実施，評価にさいして重要な役割を果たしているといえよう。ここに紹介する中央家族計画研究所 (Central Family Planning Institute, 略称 CFPI) も，そのような人口研究を目的とする研究機関の一つである。その活動の中心は，家族計画とそれにかかわる問題の基礎的・科学的研究におかれており，その運営が軌道にのりはじめるにつれ，人口問題研究者の注目を集めつつある研究機関の一つとなっている。

II 沿革，機構等

ニューデリーの住宅地グリーンパークの一角にあるCFPIは，1965年に発足したばかりの新しい研究所で，建物も4カ所に分散しており，その外容はそれほど整ったものとなっていない。CFPIの歴史は，1959年にDr. Jayshri Katjuが小規模なFamily Planning Centreを設立したことにはじまる。その後，1964年CFPIとして財団法人の登録が行なわれて，暫時研究機関としての機能をもつにいたった。

そのころ，インド政府は，最初に述べたように，家族計画運動の思わしい成果をみることができず，新しい避妊器具IUD (Intra-Uterine Device, IUCDともいう) の導入による政策転換を考慮していたときでもあり，家族計画についての科学的研究の必要性を痛感していたと思われる。このIUDによる新しい計画は1965年にはじまるが，それと時を同じくして同年3月22日CFPIは，いわばわが国でいう特殊法人として正式に発足することになった。それにより，CFPIは財政的には全面的に政府の援助を受けることになり，Ministry of Health, Family Planning and Urban Development, Government of Indiaの中の家族計画局の所管のもとにおかれることになった。

設立時にインド大統領によって承認されたCFPIのモットーは，「国家繁栄のために家族計画を行なおう！」というものであった。そして，CFPIの目的とするところは，家族計画についての調査研究，研修，サービスの三つであり，その内容は，

1. 国家の家族計画運動についてもろもろの知識を求めること，
2. Communication Action研究および人口研究の促進とそれらの調整，
3. 有効な家族計画の方法の開発とその応用，
4. 家族計画のための人材の養成，
5. 教育・研修方法の考案，

6. 家族計画の技術を普及すること，
7. 政府の家族計画局と技術面で協力すること，

などである。このように，CFPI の目的とするところは，単に調査研究と研修活動のみでなく，家族計画運動についての実践的な面ともかかわっている。また，「中央」という名が示すように，インド各地にある同じような性格の研究機関相互間の研究活動についての指導と調整といった面も含まれている。関係機関 (Associated Institutions) としては，公衆衛生，人口，統計，経済などの26の研究機関が登録されている。

CFPI の所長は，軍出身で陸軍中佐である B. L. Raina である。かれは家族計画運動に熱心であり，あとで紹介するようにいくつかの論文も発表している。CFPI の機構は，つぎの9部からなっている。

1. Administrative Services Division
2. Programme Development and Evaluation Division
3. Training Division
4. Demographic and Statistics Division
5. Social Research Division
6. Information and Auto-Visual Division
7. Medical Education and Research Division
8. Biological Research Division
9. Population Genetics and Human Development Division

全職員数は，1968年1月現在215名である。しかし，この中にはベアラーまで含まれており，実際に調査研究活動に参加できるスタッフはその4分の1くらいであろう。

上記の9部のうち，8と9の Division は名目上だけで，実際にはスタッフは空席となっている。調査関係の部のうち，いままで比較的充実した活動を行なってきているのは，おもに2と4の Division である。とくに，4の Demographic and Statistics Division は10人の Field Worker を擁し，小規模ながらパンチカード・システムを使用しており，現在のところ調査研究活動の中心となっているようである。

ここの部長は，Assistant Director である D. V. R. Murty で，その下に調査担当の次長として Dr. P. S. Mohapatra がいる。部は，Field Unit, Machine Tabulation Unit, Statistical Unit, Secretariat の四つからなり，これらを6人の Investigator が担当している。

III 調査研究活動

CFPI の調査研究活動は，いわゆる社会科学的研究と生理学的あるいは医学的研究とに大別されるが，ここではおもに前者について紹介することにする。この社会科学的研究には，方法的にみて CFPI が独自に実施したサーベイとその分析，および他の機関の実施したサーベイ結果の分析の二つがある。研究内容としては，Communication Action Research, Fertility Measurement, Programme Development の三つのカテゴリーに属する研究が中心となっている。以下に，個々のプロジェクトについて紹介しよう。

1. Communication Action Research

家族計画の普及にあたって，コミュニケーションの果たす役割は重要である。しかし，そこにはいろいろの障害があるだろう。Director の B. L. Raina は，〔1〕"Research: The Essential Factor," *YOJANA* (Sept. 15, 1968) の中で，行動研究の目的は，(1) 人々が家族計画を実行するさいに影響を与える諸要因を解明することによって，(2)家族計画運動をより効果的に遂行する方策を講ずることにあると指摘している。一般に，コミュニケーションにとっての障害となる要因として，広大なインドの国土，高い文盲率，言語の多様性，伝統的習慣，低い所得などが考えられているが，ここでの課題は，いかにしてこのような障害の中でより多くの人々に家族計画を実施させるかという問題の解明にあるといえよう。

CFPI がいろいろの研究機関の実施した Action Research の結果を分析したところによれば，農村においては指導的なリーダーの果たす役割が決定的に大きいことが明らかになった。また，それらの結果として，つぎのようないくつかの出生率低下が報告されている。

(1) Gandhigram 出生率40 (1952年) が36.3 (1965年) に低下
(2) Bombay 出生率が1964～66年の間に12%低下
(3) Calcutta 出生率26 (1953年) が22 (1964年) に低下
(4) Singur (Rural) 出生率 42 (1958年) が34.2 (1966年) に低下
(5) Chetla (Urban) 出生率 29 (1961年) が24 (1966年) に低下
(6) Mehrauli 出生率 52 (1963～65年) が 48 (1966年) に低下

2. Family Planning in Industrial Establishments

このプロジェクトは，工場労働者について実施してい

る行動研究である。対象はつぎの五つの事業所となっている。

(1) Delhi Transport Undertaking
(2) Delhi Cloth Mills
(3) Swatantra Bharat Mills
(4) Birla Cotton and Spining Mills
(5) Faridabad Industrial Units

これらのパイロット・サーベイの結果からは，限られた条件のもとにおいてではあるけれども，家族計画におけるインド人の行動についての正確でかつ洗練された諸指標を得ることができるので，このプロジェクトの完了が待たれるといえよう。

3. Distribution of Contraceptives

このプロジェクトは，避妊器具の頒布にさいしてコミュニケーションの果たす役割を科学的に評価することを目的として実施された。Shadipur, Mehrauli, Meerut の三つの地区が選ばれ，それぞれ Rural/Urban 別，教育水準別にサンプルを分けて，いわゆる before-after survey の方法でコミュニケーションの効果を測定したものである。現在のところ Meerut についてだけ〔2〕*A Study in Family Planning Communication—Direct Mailing*,〔3〕*A Study in Family Planning Communication—Meerut District* としてレポートが出ている。

この調査によって，宣伝は家族計画に関する知識の普及には相当の効果のあることが実証された。宣伝の方法には，ダイレクトメール，スライド，新聞折り込み，ニュースレター，ポスターなどが採用され，その効果は，都市部の男子にとってもっとも大きかったと報告されている。しかし，この調査はあくまで知識の普及について重点がおかれており，その実行についての調査にまでいたっていない。今後，さらに追跡調査の方法による KAP (Knowledge, Attitude and Practice) Study が望まれよう。

4. Standard Fertility Survey

このプロジェクトは，1963年から Mehrauli 地区において，(1)家族計画運動が集中的に実施された場合の出生力の変化を調査すること，(2)短期間に起こる出生力の変化を把えるためのセンシティブな指標を開発することを目的として実施されたものである。

その結果，(1)についてはさきにも記したように1963～65年の間に52であった出生率は，1966年には48に低下したことが明らかとなった。また，(2)については，短期間の出生力変化を見る指標として，出生間隔が適当であることが明らかにされた。この点はたいへん示唆に富んだ指摘である。というのは，出生力の指標として，普通出生率は年令構造の影響をうけるし，年令別出生率はそれの作成のために年令別の基礎データが必要であり，それぞれ一長一短がある。ところが，基礎データの収集にいろいろ統計上の問題のあるインドのようなところでも，出生間隔といった簡単なデータについては正確さを期すことができる。そのうえ，出生間隔が比較的敏感に出生力の変化を示すとすれば，この指標のもつ意義は大きいといわなければならない。しかしながら，この点については今後さらに厳密な検証が必要であろう。

5. Intra-Uterine Device (IUD)

これは，1965年から新しくインドの家族計画にとり入れられた女性用の避妊器具 IUD に関するプロジェクトで，CFPI が最初からとり組んでいるものである。

1966年に開かれた IUD に関するセミナーに出席した研究者から集めた IUD 採用者（合計2万0965ケース）についてのデータを分析した報告書として，〔4〕D. V. R. Murty and Others, *An Analysis of Data on IUD Cases* がある。そこでは，IUD 採用者の年令構造，出生児数，教育水準，苦情の種類，持続率といった面からの分析がなされている。

分析の内容は，若干医学的な面にも及んでいるけれども，ここであえて紹介するのは，IUD 政策のはじまった当時，IUD に関する実証的研究の成果はほとんどなく，その医学的・心理的影響に関していわば手さぐりの状態にあったインド政府に対し，CFPI が IUD 研究を通じて果たした役割を見落とすことができないからである。

サンプルについてではあるけれども，IUD採用者の年齢構造と採用の持続する期間が，この調査によって明らかにされたことには大きな意味があった。つまり，この二つの要因が今後一定であると仮定すれば，IUD採用者1000人につき毎年いかほどの出生が抑制できるかという計算ができるわけであり，インド政府はこのデータをもとにして出生力低下目標に合わせた IUD 普及計画を立案することができた。

一方，IUDの採用により，53%の人は苦情をうったえたことも明らかとなった。このように多くの苦情と同時に，世間では，IUDを採用すると不妊になるとか，女性にひげが生えるとかいったもっともらしいうわさが流れはじめた。CFPI は1966年と1967年に，これらのうわさの実態を調査している。（プロジェクト，Study on IUD Rumours)

けっきょく，その後のIUD採用者数は，〔5〕 Dept. of Family Planning, *Sterilization and IUD Insertions in the States and Union Territories, 1956 to March 1968* (CFPI 配布資料) によれば，1965/66年度81万人，1966/67年度91万人，1967/68年度67万人となり，頭初の政府の目標をはるかに下回る結果に終わってしまっている。

このIUDのプロジェクトには，CFPIが実施したMehrauliとAssam Tea Gardens (Jorhat) におけるIUD Follow-up Studyも含まれている。

以上のほかにおもなプロジェクトとしてつぎのものがある。

6. Family Planning Surveys
   (1) Family Planning Survey in Paharganj Area
   (2) Family Planning Survey in CFPI Clinic Area
7. Analysis of Data on Sterilization
8. Family Planning in Hospitals

Ⅳ その他の活動

CFPIの研修活動のおもな目的は，地方における家族計画運動の指導者を養成することにある。研修は各地方において実習をともなった講習会形式で行なわれる。昨年までの講習参加者はつぎのとおりである。

medical officers	28人
public health nurses	9人
social scientists	10人
health educators	38人
statisticians	2人
その他	34人
計	121人

CFPI主催のセミナーは，年に数回開催されるが，そのテーマは医学的なものが多い。また，昨年まで15回の家族計画の宣伝を目的とした展示会を開催している。そのほかに，著名な学者による講演会の開催，図書館のサービスなどの活動を行なっている。

最後に紹介すべきものとして，CFPIの機関誌〔6〕*Family Planning News* がある。これは，1960年に当時の政府の保健サービス局から発刊された月刊誌で，1962年からCFPIにその刊行が移管されて今日にいたっている。この雑誌には，毎号家族計画運動についてのニュースとともに，社会諸科学の分野での実証研究論文が掲載されており，インドの家族計画，ひいては人口研究をトレースするうえに欠かせないものとなっている。たとえば，1969年1月号には，

"A Study of Male Sterilization in Jammu and Kashmir,"

"A Study of IUCD Cases in Delhi,"

"Attitude Study of Unmarried Employees,"

など六つの論文が掲載されている。

Ⅴ 出　版　物

CFPIのおもな出版物として，以上引用したもののほかにつぎのものがある。

〔7〕 *Workshop on Training of Family Planning Personnel*

〔8〕 *Methods of Teaching Family Planning in Medical Colleges*

〔9〕 *Proceedings of Seminar on Reproductive Biology* (mimeo.)

〔10〕 *Proceedings of IUCD Seminar* (mimeo.)

〔11〕 *An Exploratory Study of IUCD Acceptors*

〔12〕 *Marital Maladjustment and Marriage Counselling* (mimeo.)

〔13〕 *Family Planning through Hospital Care*

〔14〕 *Annotated Bibliography on Family Planning Communications*

〔15〕 *Adoption of a New Contraceptive in Urban India*

〔16〕 *A 'Few Firsts' in the Family Planning Programme*

〔17〕 *The Role of Communications and Public Relations in the Family Planning Programme*

〔18〕 B. L. Raina, *The Family Planning Programme in India; Retrospect and Prospect* (mimeo.)

(統計部統計第1課　嵯峨座晴夫)